

### 【(3) 言葉遣いや態度】

#### ③「多くの児童生徒が活躍できる指名の仕方をしている」

##### 《つまずきの背景》

M 自己コントロールの困難さ、O 見通しを持つことの困難さ、Q 状況理解の困難さ

##### 《解説》

子どもは、授業中に発表をすることで自信を付けます。できるだけ多くの子どもが発表するためには、指名の仕方にも工夫が必要です。指名が偏らないようにするために、座席表や出席簿等を活用する方法があります。また、挙手をしているのに指名できなかった場合には、挙手したこと自体を褒めることで、次の活動に気持ちを向けることにつながります。

学級の中には、挙手して当てられなかったことに対して不満を持つ子どもがいる場合があります。その際には、発表した子どもと発表していない子どもが誰なのか、子どもたちにも分かるようにカード等で示すと平等に機会を与えられていることが分かります。また、いつ当てられるか分からないため不安に思う子どもには、事前に順番に当てることを予告しておくことで不安感を軽減することになります。

中学校、高等学校は教科ごとに担当が異なるので、指名の仕方について統一した方法を取るようにすると偏りがなくなります。

##### 【工夫点】

- ・名前を書いた板磁石をホワイトボードに貼り、発表したら裏返す。(小 工夫例 19)
- ・座席表を活用する。(小中高)
- ・出席番号順に指名する(中高)

#### ◆工夫例 19 「名前を書いた板磁石をホワイトボードに貼り、発表したら裏返す」



##### 《小学校》

一つの授業の中で全員が発表できるようにしています。名前を書いた板磁石をホワイトボードに貼っておき、発表したら裏返していきます。このようにすることで、子どもがよく手を挙げてくれるようになります。また、一度発表していると次は当たらないという気持ちになり、安心して手を挙げるができる子どももいます。発表できていない子どもには周りの子どもが、「こう言ったらいいよ」などとフォローして、手を挙げやすくなります。